

# ACCESSIBLE DESIGN

The Periodical of

## アクセシブルデザインの総合情報誌 インクル No. 75

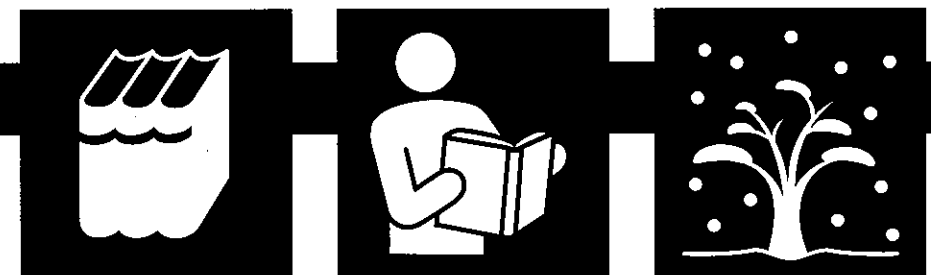
2011 (平成23) 年11月25日

No. 75

"Incl." by The Accessible Design Foundation of Japan (The Kyoyo-Hin Foundation)  
共生社会の実現を願う妖精「インクル」。「包括的教育理念」を意味する英語「インクルージョン」から名付けました

### 目次 / contents

日本工業標準化事業表彰、経済産業大臣賞 日本点字図書館 田中徹二理事長が受賞 障害当事者としては初の受賞 (星川安之).....	2
世界点字会議「Braille21ー21世紀における点字の改革ー」開催 見直される世界の点字 (田中徹二).....	3
「第38回国際福祉機器展 H.C.R.2011」開催 共用品推進機構法人賛助会員企業も出展 (森川美和)..... 2年連続でH.C.R.主催者コーナー 「高齢者の生活支援用品コーナー」に協力 (小豆沢光代).....	4 6
<随想 私と共用品> 第53回 相手を思いやることについて (鈴木啓子).....	7
「第1回ガイド71改定合同諮問グループ (ISO/IEC JTAG) 会議」開催 (松岡光一).....	8
「わさびの匂いで火災を知らせる臭気発生装置」イグ・ノーベル賞受賞 株式会社シームス (下川千草).....	10
イベント「共感するイノベーション インクルーシブデザインー10年の歩み」展 多様な人々や背景を理解し、作り手と使い手をつなぐデザイン (森川美和).....	11
「サイトワールド2011」開催 (金丸淳子).....	12
<ニュース&トピックス> 共用品推進機構のホームページリニューアル ISO/IECガイド71 (高齢者・障害者等配慮設計指針) 無料ダウンロード開始.....	14
<事務局長だより> さまざまところで広がる、「共用品・共用サービス」共用品通信 (星川安之).....	15
<わが社のエース> アイホン株式会社 みんなにやさしいテレビドアホン「ROCO JL-12」 (金丸淳子) 奥付.....	16



■「コミュニケーション支援用絵記号デザイン原則 (JIS T 0103)」に収録されている絵記号例。左から「本」「読む」「冬」(共用品推進機構ホームページから無償ダウンロードできます)

# 日本工業標準化事業表彰、経済産業大臣賞 日本点字図書館 田中徹二理事長が受賞 障害当事者としては初の受賞

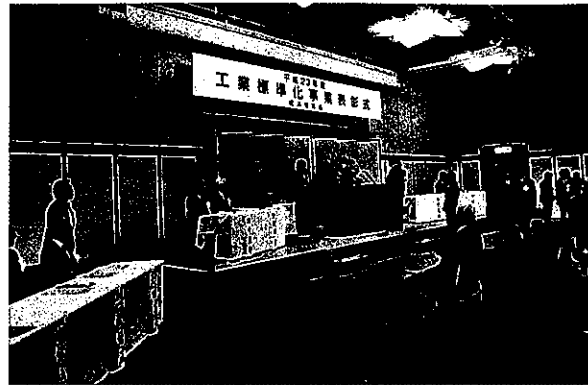
経済産業省では毎年、工業標準化に対し顕著な功績のあった個人・団体に対し「工業標準化事業表彰」を1953年から実施している。

今年は、内閣総理大臣賞に、画像圧縮技術等の国際標準化に貢献した東京大学の安田浩名誉教授が受賞、そして経済産業大臣表彰には、個人20名、組織4団体が受賞した。社会福祉法人日本点字図書館理事長の田中徹二さんは、10月17日、東京千代田区の都市センターホテルの授賞式において、障害当事者としてははじめて経済産業大臣賞を受賞した。

田中さんは、多くの日本工業規格（JIS）原案作成委員会において、視覚障害当事者ならではの視点から、その不便さを規格に結び付ける役目を果たし、工業標準化の発展に長年貢献してこられている。障害当事者および製品使用者としての田中さんの見識は、生産者が見落としがちな「気づき」に満ちており、真の意味で消費者に役立つ規格の実現に大きく貢献している。

具体的には、「JIS T 9251 視覚障害者誘導用ブロック等の突起の形状・寸法及び配列」、「JIS T 0921 高齢者・障害者配慮設計指針－点字の表示原則及び点字表示方法－公共施設・設備」、「JIS T 0922 高齢者・障害者配慮設計指針－触知案内図の情報内容及び形状並びにその表示方法」、「JIS T 0923 高齢者・障害者配慮設計指針－点字の表示原則及び点字表示方法－消費生活製品の操作部」などの原案作成委員会に委員として参加の実績であるが、参加していない委員会であっても、的確なアドバイスを提供し続けてきている。

また、高齢者・障害者配慮設計分野のJISを、国際規格にするためには、関連する海外の障害者組織との連携がなければ、各国から



■「工業標準化事業表彰」式典の様相

の合意を得ることも、制定後の普及も困難である。そのため、田中さんは、長年良好な関係を築いている世界盲人連合の関係者と連携を続け、関係するJIS規格に関して、各国の理解を得ることを行ってきた。その結果、多くのJISが国際規格化していった経緯があり、田中さんの功績は大変大きく、今回の受賞につながった。

田中さんは、今回の受賞を受け「標準化の作業は、障害当事者がかかえている、製品・システムなどの不便さを、科学的根拠を実証すると共に、開発・製造側の状況も把握し実施することが重要。それぞれの状況を調整することは大変な作業であるが、具体的な解決につながるため、とてもやりがいのある作業」と語っている。

10月は、「工業標準化推進月間」であり、10月17日・18日は、授賞式に引き続き、多くのセミナーが同会場で行われた。アクセシブルデザイン関連は、日本女子大学の佐川賢特任教授が、「アクセシブルデザインと国際標準化への取り組み」と題し、ISO/IECガイド71からの広がりや、分かりやすく解説し聴衆の関心を得ていた。

ほしかわやすゆき  
(星川安之)

# 世界点字会議「Braille21-21世紀における点字の改革」開催 見直される世界の点字

田中徹二・財団法人共用品推進機構評議員・社会福祉法人日本点字図書館理事長

世界点字会議「Braille21」が、2011年9月27日から30日まで、ドイツのライプツィヒ大学で開かれた。「21世紀における点字の改革」が副題で、これからの点字の普及と発展について、世界の英知を集めて検討しようという会議だ。世界盲人連合（WBU）が主催し、ドイツ中央盲人図書館（DZB）が会議の世話をした。

会議は実質3日間だったが、その間に基調講演二つ、パネルディスカッション二つ、ワークショップ六つ、それに発表は4教室に分かれての同時進行で68題の発表が行われた。世界の50か国から約400人が集まったが、いずれも点字については専門的な人達だけに、発表を聴く姿勢は、ほかの会議では見られないほど真剣そのものだった。

28日の基調講演は、アメリカ議会図書館盲人図書館サービスのジュディ・ディクソン氏による「教育と図書館における点字」。彼女は自分の成育歴にふれ、幼いころから点字に親しみ、大学で博士号を取ったあと、1981年に議会図書館に勤めたが、勤務後も含めて、点字がいかに大きな役割を果たしたかを紹介した。しかし、今では点字ユーザーが激減していることにふれ、ワシントンの小学校では盲児にiPadを全員に持たせ、教科書をスキャンして音声で勉強させていると嘆いていた。

二つ目の基調講演は、30日の「盲ろう者にとっての点字の役割」で、ドイツのペーター・ヘップ氏の話。彼は先天性のろう者だったが、アッシャー症候群により30歳で盲になり、それから点字を習い、それにより情

報の入手に大きな変化が起きたと報告した。

30日のパネルディスカッションのテーマは、アクセシブル・デザインにおける点字の活用で、日本から高橋玲子氏（株式会社タカトミー）が、わが国のアクセシブルデザインの現状について説明した。しかし、ほかの4人のパネラーは、いずれもドイツ、オーストリアというドイツ語圏の人たちで、司会のディーター・メスナー氏（ドイツ）も含めて、ドイツからISOのTC122（包装技術）に提案されている薬箱に点字を付けるキャンペーンに利用された感があった。

一方、発表は、パネルディスカッションや基調講演を入れた77題ものレポートに、すべてを掲載することはできないのでは、と国際プログラム委員会のメンバーでDZBのトーマス・カーリッシュ氏はこぼしていた。四つの教室で同時に発表されるので、興味をもった発表だけ追いかけたが、教室の移動だけでも大変だ。その中でISOに関係するものをあげると、薬箱に付ける点字の規定。パネルディスカッションほかでも、EUの標準規定になっているものを、ISOに提案しているの、それを周知させようという意図が伝わった。わが国のパッケージ業界は、その提案に賛成する方針を取っているが、問題は点字の高さだ。EUは、原則0.2mmで、0.1mmが混じってもいいという。0.2mmならまだしも、0.1mmはとても読めない。しかし、ほかのパッケージや、製品そのものに点字サインがふえるきっかけになれば、視覚障害者にとってはうれしいことである。

# 「第38回国際福祉機器展 H.C.R.2011」開催 共用品推進機構法人賛助会員企業も出展

10月5日(水)～10月7日(金)の3日間、東京・有明の東京ビックサイトで「第38回国際福祉機器展 H.C.R.2011」(主催:全国社会福祉協議会、保健福祉広報協会)が開催された。

共用品推進機構の法人賛助会員企業の出展は、(株)内田洋行、(株)カワムラサイクル、(株)スワニー、TOTO(株)、徳武産業(株)、(株)LIXIL(リクシル)の6社で、どのブースも大勢の来場者で賑わっていた。

\*\*\*\*\*

第38回目となる本展示会は、本年も最新の福祉機器2万点と13か国・1地域から510社・団体が出展した。

会場は、ホール六つからなる約5万平方メートルの東展示ホール全体を使用。

アクセスに関しては、都心からやや離れた場所にあるために不便を感じる声も聞かれるが、最新の福祉用具や使用する際のポイントを直接担当者から聞いたり実際に試したりすることができるのは、H.C.R.の最大の利点である。

効率よく配置された六つのホールの展示分類は以下とおりである。

## 【1～3ホール】

- ・移動機器(車いす)
- ・移動機器(リフト)
- ・福祉車両
- ・移動機器(その他)
- ・日常生活用品(食事)
- ・日常生活用品(家具)
- ・日常生活用品(衣料)
- ・日常生活用品(その他)
- ・リハビリ・介護予防機器

## 【4～6ホール】

- ・ベッド用品
- ・入浴用品
- ・トイレ・おむつ用品
- ・コミュニケーション機器
- ・建築・住宅設備
- ・義肢・装具
- ・施設用設備・感染症等予防用品
- ・在宅・施設サービス、経営情報システム
- ・情報(出版物)

今回は本年3月の大震災を受け、「ふくしの防災・避難用具のコーナー」が設けられたり、被災地のセルフ製品(障害者の方々が作った製品)の販売をする「被災地コーナー」が特別に設置されたり、各企業のブースにおいても防災に関する製品や情報技術について説明したりする姿が目立った。

福祉現場における災害時の備えは、緊急に整備しておかなければならない点であることが、来場者の問い合わせる姿からもうかがえるものであった。

今回の各企業のブースでは、製品の「見やすさ」や「アクセスのしやすさ」、「イメージのしやすさ」に重点をおいているところが目立った。ここでは、法人賛助会員企業2社の様子をお伝えしたい。

## 生活シーンをイメージさせる工夫満載

これまでINAXとしてH.C.R.に出展してきたLIXILは、会社名を変更しての初出展となる展示会であった。LIXILのブースではリモコンで便座が昇降し、立ち座りをサポートするINAXブランドのトイレをはじめとして、車いす使用者がスムーズに料理ができるよう設計されたサンウエーブブランドのキッチン、

トステムブランドのサッシや玄関ドア、TOEXブランドの扉など、実際の生活シーンをイメージしながら体験できるように一つ一つが分かりやすい配置になっていた。来場者は自由な空間の中で、我が家を想像しながら、大きさや操作性や使用感などを楽しみながら確かめていた。



■(株)LIXILブースの様子

## 動きやすく見やすい展示スペースに配慮

TOTOのブースはユニバーサルデザインに配慮し、ゆるやかなスロープ(1/15勾配)と広々とした通路幅の確保、さらにすべての人に見やすい高さや距離で製品の展示を行い、表示は多くの人に見やすい「青色」が基調を採用。多くの人達が、ゆったりとした気持ちで、一つ一つの製品を触ったり眺めていたりしていたのが印象的であった。

またQRコードを使って、スマートフォンや携帯電話でおすすめ展示商品の動画を見たり、家族や友達にQRコードを送信して動画情報を共有したりすることができるため、多くの方がQRコードに携帯電話をかざしていた。

QRコードを使った情報発信は、今後多くの企業や団体に広がりを見せるのではないかと考えている。



■TOTO(株)ブースの様子

## 新しい発想で商品開発

今回の展示会では、新しい発想での商品開発も目立った。

(株)特殊衣料(北海道札幌市)は、リネンサプライを中心として事業を展開している会社である。創業から30年が経ち、現在では自社オリジナルブランドによる福祉用具の企画・製造・販売も行っている。その福祉用具の中でも今回の展示会でとりわけ目を引いたのは、アボネットと呼ばれる頭部保護帽である。

アボネットは「ファッション性の高い保護帽子がほしい」という障害のある人の声をきっかけに産学官連携の「福祉用具のデザイン開発・研究プロジェクト」から生まれたもので、使用する人の声を反映してできた製品である。そして更に、本来の目的である“転

倒等による頭への衝撃を和らげる機能性”の強化を図るため、(財)日本自動車研究所(JARI)と共同で研究をすすめ、「より強く、より快適な頭部保護帽」を完成させた。

現在、原点であるヘッドギア型保護帽をはじめ、子どもから高齢者までが日常に使用できる保護帽、これからの季節にピッタリな寒さからガードしてくれる保護帽など多数販売している。

障害のある人の声を生かすことによって、



■左アポネット・ガード、右アポネット+JARIハットフラワー

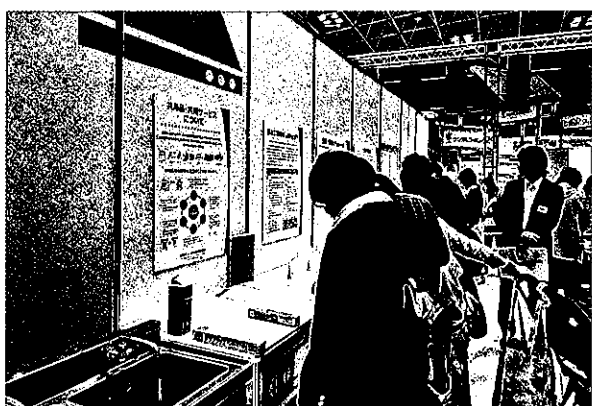
多くの人にとって使いやすい製品となったこの製品の考え方は、福祉用具生まれの共用品の代表例になるとしている。(森川美和)

## 2年連続でH.C.R.主催者コーナー「高齢者の生活支援用品コーナー」に協力

国際福祉機器展の主催団体である保健福祉広報協会企画の「高齢者の生活支援用品コーナー～高齢者の生活を支える工夫された用具や製品の展示と解説～」に去年に引き続き、企画・運営で協力させていただいた。

このコーナーは昨年同様、1日1回、「高齢者の生活を支える工夫された用具や製品の展示と解説」と題して、作業療法士の大熊明さん、机里恵さんの講演と、H.C.R.出展社から募集して集めた「共用品」の展示の2つの柱で行った。講演は、作業療法士の立場から共用品を分かりやすく紹介、多くの方々に関心をもっていただいた。

また、製品展示のコーナーは、空間をリビング・キッチン・バスルームにみたく、それぞれの場所に関係する製品を展示し、壁には、



■高齢者生活支援用品コーナーの様子

共用品に関するパネルを展示した。昨年掲示したパネルに加え、高齢者・障害者配慮の「自動販売機」「エレベーター」そして、「高齢者・障害者配慮JIS一覧」を新たにパネル化し展示した。なかでも「JIS一覧」のパネルには、時間をかけて見ておられる人が多くいた。後日、保健福祉広報協会の方から、「マスコミも『JIS一覧』にはとても興味を持ってくれた」と報告を受けた。来場者も学生、メーカー、介護関係者、一般と職種も年齢も多様だった。来場者の中は去年もお会いした顔があり、声をかけると「私の興味のあるものはここに集まっているから、一カ所で済むのでとても助かります」という感想をいただき、このコーナーの役目を確認できた。

(小豆沢光代)



## 随想 第53回 私と共用品

## 相手を思いやるころについて……

鈴木啓子 (高島屋 CSR推進室 室長 財団法人共用品推進機構 評議員)

CSR推進室へ異動となり、恥ずかしながらはじめて、(財)共用品推進機構の存在を知りました。会議に参加させて頂き、お話を伺ううちにその思想と活動内容の深さに感銘を受けました。特に障害のある方の不便さを調査し、より実態を把握し、いろいろな産業に働きかけ、商品開発や改善に結びつける活動には、頭が下がる思いがいたしました。体に不便のない人間は、なんと自分勝手に暮らしているのか、自分の境遇以外のことへの想像力がなんと欠如しているのか、また社会全体が障害のある方と本当に共生できるようになっているのかとあらためて考えさせられました。

“障害のある方も一緒に暮らせる楽しい社会の創造”などという表面的なスローガンはあるものの実態はお寒い限りということが多い中、地に足をつけて、継続されてこの活動を続け、成果をだしておられることは大変素晴らしいことだと思います。

### 相手を思いやる心

さて、今年は、3月の震災以来多くの方が社会との関わりを意識するようになりました。世間では、絆という言葉が溢れ、人が人を思いやることの大切さをどなたも口にするようになりましたが、どうも薄っぺらな感じがするのは、私だけでしょうか？ 駅構内で目の不自由な方が、有人の改札を探しているのに誰も案内しなかったり、車いすの方が通行すると明らかに迷惑そうな顔をして通りすぎたり、高齢の方が優先席前に立っているのに席を譲らず寝たふりをしたり、旅行気分です被災地のボランティアにやって来て、現地の対応に文

句を言ったり、津波で破壊された建物の前でピースサインをして写真を撮ったりなど同じ社会の中で生きる人間として、本当に共感すること、思いやることを忘れてのでは？と考える場面も多く見られます。



バリアフリーなどハード面での取り組みは、社会の中でかなり定着してきていると思いますが、そのハードを活かすベースとなる“相手を思いやる心”の定着は図られているのかという甚だ疑問に思います。同じ時代に生きる人同士がそれぞれ尊重され、思いやるころを持つというソフト面での充実を図っていくことが、これからはますます重要になると考えます。

### 創業180周年を迎えて

高島屋は、本年180周年を迎えています。当社グループにおきましては、経営理念を“いつも、人から”に定め、「人を信じ、人を愛し、人につくす」ところを大切に、社会に貢献します。と謳っています。施設面での充実を図ることはもちろんですが、当社グループで働くすべての人が、個人それぞれの違いを尊重し、受け入れ、差別なく、本当に相手を思いやることができるよう努力し、社会と共生して、200年企業を目指していきたいと考えております。

(題字は、中野奈津美・(財)共用品推進機構運営委員)

## 「第1回ガイド71改定合同諮問グループ (ISO/IEC JTAG) 会議」開催

ガイド71改定のISO/IEC JTAG (合同諮問グループ) の第1回会議は、2011年9月26日から28日までの3日間、スイスのジュネーブで開催された。

2001年に日本提案で制定されたISO (国際標準化機構)/IEC (国際電気標準会議) ガイド71 (高齢者及び障害のある人々のニーズに対応した規格作成配慮指針 以下ガイド71) の改定は2010年5月ISO (国際標準化機構) COPOLCO (消費者政策委員会) 総会で、ガイド71をCEN/CENELEC (欧州標準委員会/欧州電気標準化委員会) ガイド6として活用している欧州の規格作成団体であるCEN/CENELECより提案された。この提案を受けてISO/TMB (技術管理評議会) は2010年9月の会議でガイド71改定のためのグループを設立することを決定した。

ガイド71を積極的に活用し高齢者・障害者配慮規格を国内で作成し、国際規格としても提案してきた日本としては、その基となるガイドの改定の議論についても積極的に参加すると共に議長も日本から推薦する必要があると考え、1998年～2001年ガイド71作成の際、みやまきまさひろ 秘書長を務められた跡見学園女子大学の宮崎正浩教授を議長に推薦し、ISO/TMBにより承認された。ISO/TMBはTMBメンバー国と障害とアクセシビリティの問題に強く関与しているISO専門委員会に対して、このグループに参加する専門委員を募集した。最終的にグループのメンバーは議長やオブザーバーを含めて56名の構成となった。日本代表の専門委員としては、ほしかわやすゆき 共用品推進機構専務理事星川安之と日本点字図書館のたなかつじ 田中徹二理事長が参加し、ISO専門委員会の代表とし



■ISO/IEC JTAGメンバー

て4人の日本人が参加することとなった。

会議に先立って、事務局より①改定のポイント、②ISO、IECや他の機関で作成されたアクセシビリティ関連文書との関係、③ガイド71の影響力を高めるための方策、④事前に委員に配布された質問票への回答を基に議論が進められた。

会議にはTMBメンバー11カ国、5つのISO専門委員会やIEC、ITU、ANEC等の代表者合計32名が参加して行われた。事務局よりガイド71改定のための手順 (スケジュールを含めて) の説明があり、合意された。議論の中心は適用範囲の箇所、特に対象者の拡大、それに伴うガイドの表題等であった。

最終的に新しいガイド71の目次と以下の具体的な決定事項を確認した。(主だった項目を下記に紹介)

- 1 現在のガイドの7章 (アクセシブルデザインを確実にするため、規格作成時に配慮すべき要素の表) を削除し、新TR22411 (高齢者及び障害のある人々のニーズに対応した製品及びサービスに関する規格 ISO/IECガイド71を適用するための人間工学的データ及び指針) に表を移行する。
- 2 ガイドの本文に「アクセシビリティ」の原則を説明する新しい章をつくる。
- 3 ユニバーサルデザイン、デザイン・フォー・オール、アクセシブルデザイン等の重要な概念を紹介する附属書を準備する。

- 4 6章のアクセシブルデザイン関連の規格を作成するプロセスとガイド71をどのように使用するかという方法についての説明を充実させる。
- 5 ガイド71の改定に伴いタイトルについても変更するかどうかの検討を行った。いくつかのタイトル案が出たが、次回以降再度検討することとなった。
- 6 専門用語と「アクセシビリティ」の定義をガイドに含めるかどうか引き続き議論することになった。
- 7 適用範囲または序文に、障害者権利条約を紹介する。
- 8 認知能力に関する新しい情報を含める。
- 9 点字版等の代替様式を準備する。
- 10 参考文献はウェブサイトに記載し、ガイド71には記載しない。
- 11 サービス、情報通信技術、建築環境とシステムに関して充実させる。

- 12 文書は、平易な英語と単純な構造を使用する。
- 13 ガイドの促進と普及方法については後の段階で議論する。
- 14 ガイド71についてのヘルプデスクの設置等に関しては次の段階で議論する。
- 15 高齢者と障害のある人々との区別を議論する問題を解決する。
- 16 安全に対する参照を含める。
- 17 次回のJTAG会議は2012年3月13～15日にアイルランドのダブリンで開催する計画である。日程と場所についてはNSAIと協議の上、確認する。

また上記の具体的な決定を実行するために、テーマごとの特別チームを結成し、次回の会議に向けて、個別に原稿の作成を担当することとなった。チーム構成と原稿の締切は以下の通りである。まつおかこういち (松岡光一)

特別チーム	特別チームリーダー	特別チームの提出物の中間締切	特別チームの提出物の最終締切
アクセシビリティに関連する用語と定義の収集	Reinhard Weissinger (JTAG 事務局)	2012-01-31	2012-02-29
特別チーム1: 原則と概念 (ユニバーサルデザイン等)	Jim Carter (カナダ)	2012-01-31	2012-02-29
特別チーム2: モデル: 医療、社会、ユニバーサル参照と人権	Rory Heap (英国)	2012-01-31	2012-02-29
特別チーム3: 規格開発プロセスにおけるガイド71の利用 (段階的なプロセスの記述)、規格開発者の調査を含む	Gill Whitney (ANEC)	2012-01-31	2012-02-29
特別チーム4: 「配慮すべき要素」と「心身の機能と障害の影響に関する詳細」	Klaus-Peter Wegge (ドイツ)、Terry Skehan (スウェーデン) (tbc)	2012-01-31	2012-02-29
特別チーム5: 普及・促進面	Eoin O'Herlihy (ISO/TC59/SC16)	2012-01-31	2012-02-29

## 「わさびの匂いで火災を知らせる臭気発生装置」イグ・ノーベル賞受賞

しもかわちぐさ  
下川千草・株式会社シームス

“43%の人が自宅にいて眠っている時に火災を心配する。しかし、45%の人が音のみによる火災警報器しか設置していない。”これは昨年全国15カ所にて聴覚に何らかの障がいのある方168名を対象に弊社が行ったマーケティング調査の結果です。睡眠中に火災が起きていることに気付かず、逃げ遅れてしまったら…。そんな不安を少しでも取り除きたい、香りのチカラでもっと安心と安全を感じてもらうことができないか？そんな思いから『わさびの匂いで火災を知らせる臭気発生装置』は7年の歳月をかけて開発されました。2011年10月、この商品が「人々を笑わせ、そして考えさせてくれる研究」に贈られるイグ・ノーベル賞（化学賞）を受賞させていただいたことは、香りによる社会貢献を真剣に目指している弊社にとっても、大変喜ばしく意義のあることであるとありがたく思っております。また、今回の受賞を機に世界中に向けて聴覚に障がいのある方々の安心と安全についての現状とニーズを発信できたことは、今後の更なるユニークな共用品の導入推進にも役立つのではないかと考えております。

商品の開発段階では、何の匂いが睡眠中の火災による危険を知らせ、覚醒を促し、更に直ぐに避難行動に移れるか？という観点で幾度も検討を重ねました。100種類を超える匂いでの試行錯誤を繰り返し、最終的にわさびの匂いに含まれる成分に着目致しました。アリルイソチオシアネートという成分が、痛みを感知する神経を刺激して、否応なしに覚醒を促す仕組みです。“たたき起こす”という言葉がありますが、文字通りわさびのツーンとした匂いによって“たたき起こされる”というイメージです。商品発売前には医師立会いの下での臨床試験も行われ、実際に睡眠を

覚醒することも確認されました。特に、聴覚に障がいのある方は、健常者に比べて早く起きる傾向にあり、深い睡眠時においても効果を発揮することが分かりました。

また睡眠をとるのは自宅だけとは限りません。前述のマーケティング調査では、外出先での火災を心配する人の中で、宿泊施設での不安を挙げた方が28%に上りました。実際に聴覚に障がいのある方が宿泊を断られるケースも多いということは大変に残念なことです。「もっと自由に出かけたり旅行を楽しみたい」そんなお話をしてくださった聴覚に障がいのある方々の為にも、小型化して手軽に持ち運べるタイプや無線タイプの開発にも既に着手しており、近い将来に実用化される見通しです。また今後は海外での販売も見込まれており、全世界に向けて日本発のわさびの匂いによる安心と安全をお届けして参りたいと考えております。

誌上では実際に使用されているわさびの匂いを嗅いでその効果を確かめていただけないのが残念ですが、この商品が役立つことが無いことを願いながら、今後も更に何らかの障がいのある方々にとって朗報となるような開発と社会貢献を続けて参ります。実際のご利用者の皆さまのお声が一番役立ちますので、ご意見ご要望等がございましたら是非お寄せいただけますと幸いです。この度は誠にありがとうございます。

▼ウェブサイト

<http://www.seems-inc.com/>



■臭気発生装置パンフレット

## イベント「共感するイノベーション インクルーシブデザイン-10年の歩み」展 ～多様な人々や背景を理解し、作り手と使い手をつなぐデザイン～

2011年10月5日～9日に東京・恵比寿でイベント「共感するイノベーション インクルーシブデザイン-10年の歩み」展が開催された。このイベントは、ヘレン・ハムリン・センター・フォー・デザイン（イギリス・ロンドン）の上席特別研究員ジュリア・カセム氏が企画し、英国デザインビジネス協会（DBA）（イギリス・ロンドン）と共同で開催してきた世界的にも珍しい取り組みの一つである「DBAデザインチャレンジ」の10年の歩みをまとめたものである。

### DBAチャレンジが織りなすデザイン

2000年にスタートした「DBAデザインチャレンジ」は、デザイナーと障害のある人などが一緒になって商品やサービス、環境デザイン等の提案を行うもので、障害のある人々が日常生活の中で発見した発想と、デザイナーの創造力が織りなす空間で素晴らしいアイデアが生まれることにある。

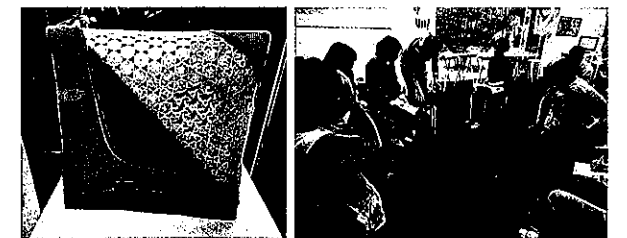
カセムさんは、「この企画を始める前、デザイナーは、使い手であるエンドユーザーとコンタクトを取り、ユーザーの声をきちんと反映した形でデザインをしていると思っていた。しかし、実際にデザイナーの話しを聞いてみると自分のためのデザインが多く、ユーザーのことを考えていないことが分かった」と話した。この出来事が、後にチャレンジを始めるきっかけの一つとなっている。

### コンセプトをはっきりと

これらのチャレンジの中で生まれた製品のひとつに、カセムさんが印象深いと話す作品があった。高齢者施設などに置かれるクッションは、排せつ等の状況を考え、常に洗えたり消毒できたりすることは必須で、クッション

本来の座り心地の良さも兼ね備えたものが望まれる。しかし当時そのような製品は一般市場には多くなく衛生面を考えると早い周期で廃棄しなければならないことも多い。そこで、チャレンジのテーマを「Sedentary Lives（座ったままの生活）」と決め、クッションを長期、長時間使用する人達の調査を開始した。学校に通う子ども達、レジを打つお店の人達、トラックの運転手など、あらゆる人達を想定した上で、どのようにクッションを使用するか、またどのような時に使用したいかを調べた。

その結果、誕生したのが「モー」（写真）である。素材は、2枚のプラスチック製メッシュ構造の間にポリマースプリングを入れた中空構造になっている。このまま消毒もでき座り心地もよく、日常のクッションが全く新しい製品となった。



■左「モー」 右カセムさんによるギャラリートークの様相

今後カセムさんは、九州大学大学院平井康之准教授らと共に、自身が社長を務めるインクルーシブデザイン研究所を拠点として、地域に限らず世界に向けて幅広く活動を始める予定である。  
(森川美和)

注釈：インクルーシブデザイン・・・年齢、障害、人種などの社会的な理由で、デザインの対象から外されてしまった多様な人々を、最初から包含（インクルード）するデザインプロセスの考え方で、多様な人々のニーズや思いをデザインに反映することで、創造的かつ効率的なデザインの実現を目指し、従来よりも大きな市場の開拓を目指している。



■にぎわいをみせたサンライズホール



## 「サイトワールド2011」開催

11月1～3日の3日間、視覚障害者向け総合イベント「サイトワールド2011」（社会福祉法人日本盲人福祉委員会・サイトワールド委員会主催）が開催された。2006年に始まったこのイベントも今回で6回目を迎え、製品の説明をするブーススタッフと来場者の声でにぎわっていた。

### 来場者に対する会場までの配慮

会場は東京・錦糸町のすみだ産業会館サンライズホール。JR錦糸町駅で電車を降りると、そこにはサイトワールドに向う白杖を持った人たちが、黄色い腕章をつけたボランティアのサポーターたちの腕につかまりながら、会場に向かう姿が多く見受けられた。駅の構内からサイトワールドは始まっており、主催者側の来場者への配慮を感じた。

また、駅から会場までの各所に、サポーターが立ち、案内・誘導を行っていた。会場内では、必要であればサポーターと一緒に歩き、出展ブースの説明をしてくれる。また、この展示会の特徴でもあるが、トイレに音声説明がついていて、「右が女子トイレです」と迷わないで入れるようになっている。

この日は盲導犬を多く見かけた。盲導犬は使用者の横にじっと座り、時々周りを伺って

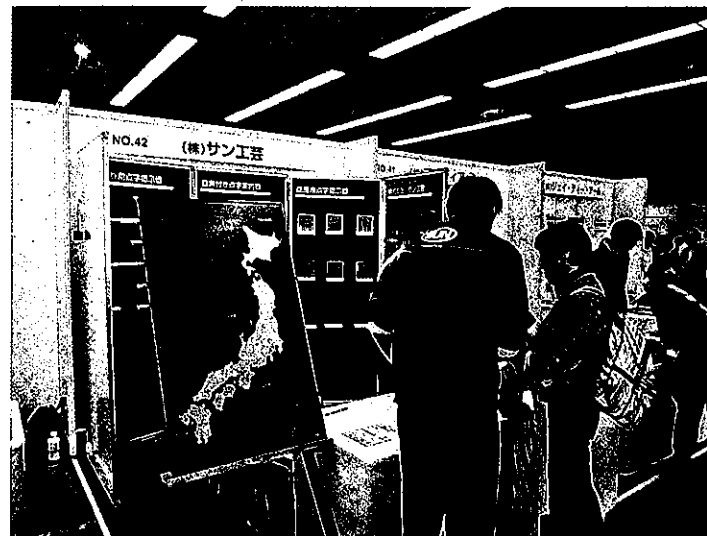
いたが、中には「盲導犬 仕事中」というカードを付けた犬もいて、犬好きの人が突然盲導犬の体に触れて、使用者が困らないようにするための工夫と思われた。

### 配慮が進む一般製品

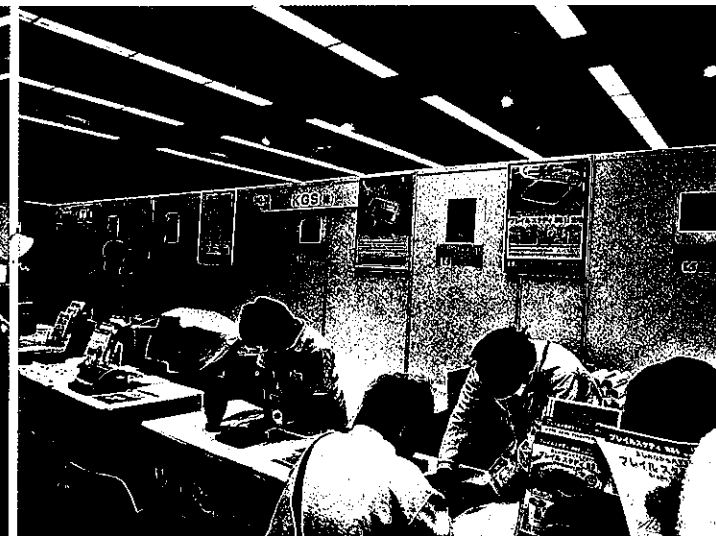
共用品推進機構法人賛助会員のケージーエス㈱、㈱サンエ芸を含む約40社がブースを構える中、視覚に障害のある人たちが日常使用している機器をはじめ、一般の人たちも使用している家電製品の中で、特に視覚に障害があっても利用できる製品が登場している。

三菱電機のしゃべるテレビは、テレビには欠かせないリモコンに特徴がある。ボタン上の数字や「予約」「見る」「決定」など主要な文字が見やすい文字で書かれ、そのボタンに印（凸表示）がついていて、触って分かる配慮がされている。リモコンを操作すると音声でフィードバックされ、今、どのチャンネルが写っているか、録画操作のどこまで進んでいるかが言葉でわかる。

国内でデジタル放送対応のテレビが発売された当初は、視覚に障害のある人たちには使いづらい機種が多かったが、その後徐々に改良が進み、ここまで使いやすいテレビが登場した。



■㈱サンエ芸ブース



■ケージーエス㈱ブース

### 講演・シンポジウム

展示ホールの上の会場では、講演・シンポジウムが開催された。今年は3月11日に起きた東日本大震災をシンポジウムのテーマとし、震災を体験した視覚障害の人たちの体験談が紹介された。その話を聞くと胸が痛くなったが、これも知っておかなければならないこと・忘れてはいけないことと、肝に銘じた。

視覚に障害のある人のための展示会の中で、この規模のものは国内で唯一とっていいほどだ。インターネットで情報を集めるのが得意な人も多いただろうが、実際にその製品の説明を聞いて、触れて体験すると、公表されていない話なども聞けてもっと楽しめることも多い。



■シンポジウムの模様

来年の開催は、同会場の今年と同じ11月1～3日。日々進歩する機器に触れて楽しんでもらいたい。

かなまるじゅんこ  
(金丸 淳子)

### シンポジウム等スケジュール

特別企画：シンポジウム「東日本大震災・原発と視覚障害者」

フォーラム：サイトワールドアクセシビリティ・フォーラム

講演：「二人の盲偉人の心 埴保己一と杉山和一/長尾榮一氏他」

セミナー：「人はなぜ自分の位置を知りたいのか」、「KGSセミナー 2011」

学術発表会：ライフサポート学会

概要説明：「サピエ図書館とは/日本点字図書館他」

製品紹介：株式会社日本テレソフト

体験会：新製品 プレクストークリンクポケット/シナノケンシ、体表点字/桜雲会

ビデオ上映（繰り返し上映）：東日本大震災東京消防庁活動記録（約15分）

## ●ニュース&トピックス

### 共用品推進機構のホームページリニューアル



共用品推進機構のホームページは2007年のリニューアルから4年で追加情報が増えたため、デザインの変更を行いました。

「トピックス」「製品・サービス」「報告書・書籍等」「催し案内」「標準化」「募集」のインデックスがつき、最新情報が検索しやすくなりました。

表示方法の切替えの選択も「標準表示」「白黒反転・文字拡大」「装飾なし・音声用」という表現に変更しました。

■URL <http://www.kyoyohin.org/>

また、ウェブサイトには、共用品推進機構

の活動の様子を掲載したブログを開設しています。イベントや講座・講義の様子など、写真を多く掲載したり、『インクル』では紹介しなかったエピソードを交えながら編集しています。また、事業とは別のカテゴリーで、職員の休日の過ごし方（山登りの様子）や職員のダイエットについても紹介しているので、ぜひ、ご覧下さい。

## ●ニュース&トピックス

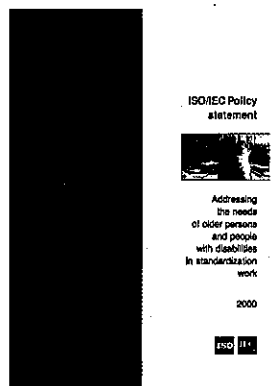
### ISO/IECガイド71（高齢者・障害者等配慮設計指針） 無料ダウンロード開始

2001年にISOより発行されたISO/IECガイド71（高齢者及び障害のある人々のニーズに対応した規格作成配慮指針）をさらに幅広い人たちに利用していただくために、ISO内JTAG（改定合同諮問グループ）で検討がはじまりました。これに伴い、ISO/IECガイド71とそのポリシーステートメントがISOのホームページから無料でダウンロードできるようになりました。

改定についての詳細は、本誌P8～9で紹介しています。

■URL [http://www.iso.org/iso/hot\\_topics/hot\\_topics\\_accessibility.htm](http://www.iso.org/iso/hot_topics/hot_topics_accessibility.htm)

- ・ ISO/IEC Guide 71:2001, Guidelines for standards developers to address the needs of older persons and persons with disabilities : 471 KB
- ・ ISO/IEC Policy statement - Addressing the needs of older persons and people with disabilities in standardization work : 350 KB



## さまざまなところで広がる、 「共用品・共用サービス」

### ■台湾の炊飯器

8月24日・25日、台湾金属工業発展センターから依頼を受け、台湾の大同大学の梁成一教授と共に台北、台中2か所で講演。多くの方々に関心を寄せていただいた。

梁教授が教鞭をとる大学は、台湾の家庭には必ず一台はあり誰もが知っている炊飯器を50年製造・販売し続けている会社で作った大学である。操作がスイッチだけのこの炊飯器は、ご飯を炊くだけでなく、食材を煮る、焼く、蒸すなどあらゆることに利用できる。若い頃から使いこなしているこの炊飯器であれば、高齢になってもしっかり使いこなしていると、梁教授は誇らしく話してくれた。変わらないこと、ずっと存在することも共用品に必要な条件と教えられた。

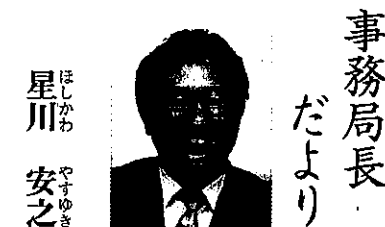
### ■ISO/IECガイド71の改定開始

9月26日～28日、ジュネーブでISO/IECガイド71の改定作業が開始された。2001年に菊地真 防衛医科

大学校副校長が議長となり制定された同ガイドの今回の改定作業は、前回セクレタリーを務めた宮崎正浩さん（跡見学園女子大学教授）が議長を務め開始された。2001年の制定されたガイドの作成には10数名の委員であったが、あれから10年たち、今回の会議には11か国と8機関から32人が参加して行われたことに、感慨深い気持ちになった。多くの国・人の叡智を集め更に使いやすいガイドを目指したいと改めて思った次第である。

### ■展示会ガイド普及会議

展示会関係団体並びに障害者団体等が集まり、共用品推進機構が事務局となり作成した「より多くの人が参加しやすい展示会ガイド」は、2011年5月に発行された。多くの関係者に配布させていただき、「参考になった、役にたった」と、嬉しい言葉ももらっている。その半面、個々の展示会で活用するためには、個々の展示会の状況に合わせて準備する作業が必要になってくる。また、



星川 安之

事務局 長 だより

そのそれぞれの実践で得られる効果、またはその逆も、それ以降実施する展示会に活用できるように情報を共有化するための仕組みづくりをしていくことが重要だと、関係者で話し合い、このガイドを普及させるための検討会が10月13日に発足した。

普及が一番困難な事業であるが、一番重要な事業の一つでもある。多くの叡智が、普及並びに継続に繋がるようにしていけたらと思っている。

### ■共用品 井戸端会議

本年6月から、日本工業出版から発行されている「福祉介護プラス」で芳賀優子さん（弱視）、西留満寿美さん（ろう）、上山のり子さん（車いす使用）、でテーマを決め座談会を行い誌面で再現している。今まで、「買い物」、「通販」、「震災」、「料理」などをとりあげている。毎回、改めて気づかされることが多い。コミュニケーションをとり、「知るべきことを知る必要性」を改めて感じている。 (★)

## 共用品通信

### 【会議】

- 第1回ADC幹事会（9月20日）
- 第1回国内JIS AD展示WG委員会（9月22日）
- 第1回改定JIS WG委員会（10月3日）
- 第1回TC173/SC7国内コミュニケーション絵記号WG委員会（10月21日）
- 第1回TC173/SC7 国内トイレ操作部WG委員会（10月27日）
- 第2回ADC幹事会（11月1日）

### 【講義・講演】

- 関東シニアライフアドバイザー協会主催「シニアライフ講座」（星川、明治薬科大学副堂会館、10月1日）
- 神奈川ロービジョンネットワーク研修会（星川、神奈川歯科大学横浜研修センター、10月22日）
- JICA「アセアン国際標準開発研修」（金丸、10月27日）
- 早稲田大学ゼミ（森川、11月12日）

### 【共用品授業】

- 昭島市立拝島第三小学校共用品授業（森川、9月26日）
- 八王子市立山田小学校共用品授業（森川、11月11日）

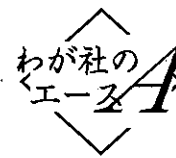
### 【来訪・来所】

- スウェーデン ヴェストラ・イエータランド県の人権局職員他2名来局（10月5日）
- 台湾 經濟部 金属工業発展中心 視察団来局（10月6日）

### ＜読者の皆様へお願い＞

「共用品通信 情報アラカルト」欄では新製品・新サービス、セミナー・講演・展示会、モニター募集など、個人・法人賛助会員の皆様からのお知らせも掲載致します。事務局「インクル編集担当宛て」に、ニュースリリース、イベント案内などの情報をお寄せください。Eメールも歓迎です。





# アイホン株式会社

## みんなにやさしいテレビドアホン「ROCO JL-12」



■最新の機器を展示した  
本社ショールーム



■商品企画室 主幹 たまき かつし  
玉木克志氏

### ■アイホン株式会社

「ROCO JL-12」

▽発売：2011年11月

▽価格：オープン価格

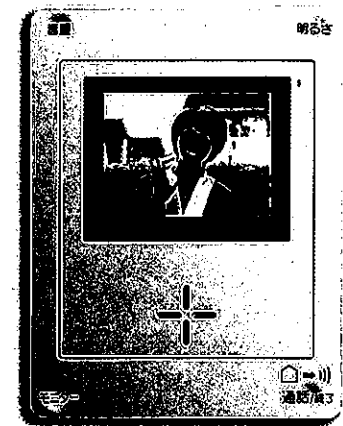
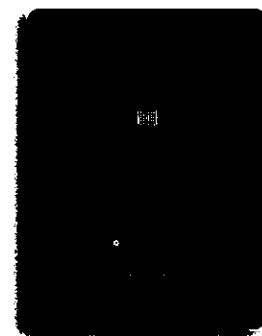
▽問合せ先：お客様相談センター  
0120-141-092

携帯電話からは0565-43-1390

▽ウェブサイト：

<http://www.aiphone.co.jp/index.html>

# ROCO



■テレビドアホン「ROCO JL-12」

アイホンは、新しく発売になったテレビドアホン「新ROCO (ROCO JL-12)」を発売した。シンプルなデザインで、モニター付き親機の前面四隅に配置し、視認性を高めた。また、操作ボタンには、「音量」、「明るさ」、「モニター」、「通話/終了」と日本語でその機能を表示している。

モニターには、訪問者をカラー映像で映し出す3.5型ディスプレイを採用。カメラ付き機のLEDライトで、夜でもしっかり訪問者を確認できる。このLEDライトは、急に点灯して訪問者がまぶしさを感じたり、驚いたりしないようゆっくり点灯する。モニター付中継親機や設置が義務化されている住宅用火災警報器も接続でき、多機能で手軽な防犯・防災機器と

しても役に立つ。

また、省エネ・省資源にも配慮し待機電力、使用部品数をカットしており、地球環境にも優しい。

### スマートフォンを活用した商品開発

最近、スマートフォンの利用数が増加しているが、これを利用してさらに機能を付加する製品開発も進んでいる。外出中でも、住宅用のドアホンの映像をスマートフォンに送り、訪問者を確認して防犯に役立つようにしたり、ケア市場では「ある病院で撮ったレントゲン画像や心拍数を、別の病院の医師がスマートフォンで受け取れるようになる」と玉木氏。新しい技術を用いた共用品の分野も広がっている。

(金丸淳子)

アクセシブルデザインの総合情報誌

## インクル 第75号

2011 (平成23) 年11月25日発行  
"Incl." vol.12 no.75

©The Accessible Design Foundation of Japan  
(The Kyoyo-Hin Foundation), 2011

隔月刊、奇数月に発行

一般頒価 1部1000円

(但し、個人・法人賛助会員については、購読料は年会費の中に含まれています)

※視覚に障害のある方など、墨字版がご利用できない方にはPDFファイルのCD-Rを提供しています。必要のある方は、事務局までお申し出ください。

編集・発行 (財)共用品推進機構  
郵便番号 101-0064  
東京都千代田区猿樂町2-5-4 OGAビル2F  
電話：03-5280-0020  
ファクス：03-5280-2373  
Eメール：jimukyoku@kyoyohin.org  
ホームページURL：http://kyoyohin.org/

発行人 鴨志田厚子  
事務局 星川 安之  
森川 美和  
金丸 淳子  
水野由紀子  
高橋 裕子  
松岡 光一

小豆沢光代  
執筆・協力 下川 千草  
(五十音順) 鈴木 啓子  
田中 徹二  
山本百合子

印刷・製本 ベスト・イーグル(株)  
サンパートナーズ(株)

本誌の全部または一部を視覚障害者やこのままの形では利用できない方々のために、非営利の目的で点訳、音訳、拡大複写することを承認いたします。その場合は、財)共用品推進機構までご連絡ください。上記以外の目的で、無断で複写複製することは著作権者の権利侵害になります。